

ちよつといし話

～ 剃 髪 ～

不足の有る無しに関係無く、ふと侘（わび）しさを感じる事があります。それは煩惱や未来への不安が潜在意識となって知らず知らずのうちに、頭を持ち上げてくるのだと思われます。人間が亡くなると、僧侶が出向き死者の枕元で枕経を読誦します。魔から守り出家させるためです。その中に、お剃刀の儀があります。その意とする事は死しても存続する煩惱を絶つ事にあるのです。儀式としては肉体の一部、頭髪を剃る作法をして、断除煩惱、究竟寂滅、と称え新亡を守ると言う大切なおつとめです。昔から頭髪にまつわる逸話が各地のお寺に残っています。現在でも老若男女を問わず頭髪にかける思いは計り知れません。それ程大切な頭髪を献上し、お導きを願うのです。応等に、**必得往生**のために。

毛利元就（もとなり）が子息に3本の矢を例えに教育をした話は有名ですが、大衆の支える力によって世の中は良く回っていきます。現在は少なからず「我田引水」の人が増え、良い風習に水を指し、公衆道徳の欠如も叫ばれて久しからず、愚かなる者いつ目覚めるのであろうか？世は方にまやかしの大義名分を掲げ愚かなる戦争を繰り返し反省する事もなし。こんな人民に佛様が手を差し伸べるはずはありません。経に曰く、**功德を平等に施し、同じく菩提心を発（おこ）して、安楽國に往生せん**、とあります。早く目覚め至心に懺悔し、**佛の御心のままに！**真の平和を願いましょう。

善入院油掛地藏尊